

東北のなかま

発行 生協労連東北地連

12年1月23日 11年度7号

電話022-236-9651

FAX 022-283-0035

春闘組合学校開催

1月21日(土)～22日(日)に山形県上山温泉で地連春闘組合学校が開催されました。記念講演は、福島大学経済経営学類の小山良太准教授【写真右】に「東日本大震災・福島原発後の情勢と協同組合への期待」と題し講演いただきました。チェルノブイリの視察にも行かれた先生からは、向こうの状況も話されました。また現在の状況の問題点や、協同組合間協同の必要性も提起され、関心の高い話だけに参加者も熱心に聞いていました。



続いて、生協労連の大井書記次長より生協労連12春闘方針の提起がされました。分散会は6つのグループに分かれて、講演や生協労連方針提起を受けての話や、職場の問題を出し合い、春闘でどのように取り組んでいかなければならないのか話し合いました。



2日目は分科会を行ないました。①模擬団交 ②パート法・最賃・均等待遇を考える ③女性部交流会 ④大学部会 ⑤青年部会と分かれて分科会を実施しました。①の模擬団交で、これから起こりそうなことや実際にあったことなどを織り交ぜて行ないましたが、時間が足りなかったこともあります。参加者の判定でも労組が勝ったとはなりませんでしたが、春闘交渉では是非これを教訓に頑張りましょう！

◆参加者の感想◆ ○小山先生の話聞き今年国際協同組合年なので、様々な協同組合で協同し、検査体制や情報提供できればスピードある復興対応ができるのではと思った。○セシウムばかりが話題になるが、他のプルトニウムなどの情報が伝えられないことに憤りを感じた。○分散会で各職場の欠員状況が深刻なことが出されました。「入ってもすぐ辞める」「募集しても応募がない」などの声がありました。これまで指摘されている「サービス残業」「課題がきつい」などの問題を解決しなくてはならないと感じました。



今回の春闘組合学校は16単組90名の参加でした。

各単組で春闘要求書を提出したら、地連にも報告下さい。